

実務経験のある教員による授業科目一覧

国際教養学部					担当教員	実務経験のある教員による授業科目 ＜授業概要＞
授業科目の名称	単位	科目区分	開講期	開講年次		
キャリアデザインⅣ	2	共通科目	後期	3	柳瀬 昌孝	自分史や自己分析シートの作成を通じて自己分析を行い、様々な業種・業界や職種を知ることで、職業選択や就職活動・インターンシップ選考に必要な知識やスキルを身につける。応募書類の基礎知識を習得しエントリーシートを作成したり、面接の基礎知識を習得し模擬面接やグループディスカッションの実践を行ったりするなど、キャリア実現に向けた活動に自信を持てるようにする。なお、人事部門に従事した経験を活かし、採用担当者の視点を意識した就職指導を行う。
地域社会貢献研究	2	専門科目	前期	3・4	今村 健太郎	本授業では地域社会の在り方を考え、住民・企業・行政がどの様に地域社会で活動をしているのかをみていく。 千葉県及び柏市周辺地域と他の都道府県・周辺地域との比較をしながら、行政視点だけではなく、企業や住民がどの様に参画していくのか地域社会の役割を考えるとともに、担当教員が経営コンサルティングを行った事例も含めて地域に留まらず国際貢献・交流を図る研究をしていく。
臨床心理学概論	2	専門科目	前期	2・3・4	佐久間 祐子	臨床心理学は、個人、集団、地域(学校・企業をなどコミュニティ)に対する心理的援助の実践に基づいた応用心理学である。本講義では、臨床心理学の理論的背景、及び、心理臨床の実践における臨床心理面接、臨床心理査定、臨床心理的地域援助、臨床心理的研究調査という4つの柱の理論と実践を紹介する。講義に際し、テキスト及び配付資料等により各事項の予習を行い、グループワーク、グループディスカッション、演習を交えながらこれらを体験的に身につけ、臨床心理学の各種基礎事項を説明できることを目的とする。なお、心の援助資格(臨床心理士、公認心理師、精神保健福祉士)を有し心理臨床実務に携わってきた経験を生かした講義・演習を行う。
心理的アセスメントA	2	専門科目	前期	2・3・4	佐久間 祐子	この講義では状態・症状のアセスメント、人格のアセスメント、知能・発達のアセスメントに関する各種心理検査のうち、臨床・教育の場や研究で良く使用される質問紙法、作業検査法、知能検査、発達検査を取り上げる。各種心理検査を概説し、検査の実施と結果のまとめを体験する。また、心理検査の実施に伴う倫理や検査者・被検査者関係についてなどにもふれる予定である。なお、心の援助資格(臨床心理士、公認心理師、精神保健福祉士)を有し心理臨床実務に携わってきた経験を生かした講義・演習を行う。
精神疾患とその治療	2	専門科目	後期	2・3・4	田原 直久	本授業では、(1)精神疾患総論(代表的な精神疾患についての成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援を含む)、(2)向精神薬をはじめとする薬剤による心身の変化、(3)医療機関との連携について扱う。心理師には、精神疾患患者への理解とその最低限の対処法の修得が求められているため、日本の医療現場で一般的に使われているICDやDSMの分類に従い障害・診断カテゴリーを学ぶ。また、スクールカウンセラーとして、さまざまな病気や障害を持つ児童・生徒や保護者と向き合ってきた。その体験談や事例を通して、わかりやすく解説する。積極的に発言し、意見を出し合うディスカッションを中心とする。
認知行動療法	2	専門科目	後期	2・3・4	佐久間 祐子	近年、特に欧米を中心として新しく展開した分野である、認知行動アプローチを紹介する。 EBM(Evidence-Based Medicine 実証にもとづく医療)の流れは、臨床心理学にも及びつつある。認知行動アプローチは、実証的で科学的なアプローチであり、これまで日本の臨床心理学ではあまりふれられなかった治療評価、科学的研究を重視する。本講義では、認知行動療法の基礎理論、及び不安、抑うつなど日常生活や臨床場面でよくみられる問題とその治療技法について、認知行動療法の体験的ワークを交えながら学ぶ。なお、心の援助資格(臨床心理士、公認心理師、精神保健福祉士)を有し心理臨床実務に携わってきた経験を生かした講義・演習を行う。
心理演習A	4	専門科目	通年	2・3・4	佐久間 祐子	臨床心理学的な自己理解および他者理解の方法について、実際に体験しながら学ぶ。心理相談の演習においては、自分の経験を振り返り自分の心の動きに目を向けて自己理解を広げ深めること、他者と自己に対する温かい関心と尊敬の態度を育てること、無理のない自己開示を行うこと、人と人との相互の影響を理解することが必要になる。担当教員は臨床心理士、精神保健福祉士、公認心理師の資格を有する。心理臨床及び保健福祉領域等の対人援助の実務に従事してきた経験を活かした基礎的な心理演習を行い、学生の上記理解と態度形成を目指す。なお、心の援助資格(臨床心理士、公認心理師、精神保健福祉士)を有し心理臨床実務に携わってきた経験を生かした講義・演習を行う。
心理演習B	4	専門科目	通年	2・3・4	鳥越 淳一	知識及び技能の基本的な水準の修得を目的とし、次の事項を具体的な場面を想定したロールプレイ及び事例検討を通して修得する。(1)心理に関する思念を要するもの等に関する知識及び技能の修得、(2)心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成、(3)心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、(4)他職種連携及び地域連携、(5)心理師としての職業倫理及び法的義務への理解。前期は主に理論的な理解を中心に構成されており、後期は心理臨床に従事している教員の実務経験を活かしたロールプレイングを中心に構成される。
心理実習	5	専門科目	通年	3・4	鳥越 淳一 佐久間 祐子	この授業では、心理臨床の現場における心理臨床活動の実際を学ぶことを目的とする。事前実習として学内で実習の準備を行った後、実際の心理臨床援助施設や機関においてクライアントやスタッフと適切にコミュニケーションをとりつつ、日常の業務を実際に体験する。加えて、実地実習では、臨床の現場で必要となる、クライアントやそこで働くスタッフに接する際の心構えや社会的マナー等も身につける。これら一連の実習を経て、受講生は、心理的支援を要するものへのチームアプローチ、多職種連携及び地域連携、心理的支援を行なう者としての職業倫理及び法的義務への理解を深める。教員は、長年心理臨床業務に従事しており、臨床家としての立場から、現場の臨場感を重視した指導を行う。

実務経験のある教員による授業科目一覧

国際教養学部					担当教員	実務経験のある教員による授業科目 ＜授業概要＞
授業科目の名称	単位	科目区分	開講期	開講年次		
教育・学校心理学B	2	専門科目	前期	2・3・4	佐久間 祐子	学校心理学は、「学校教育において一人ひとりの子どもが学習面、心理・社会面、進路面、健康面における課題への取り組みの過程で出会う問題状況の解決を援助し、子どもが成長することを促進する『心理教育的援助サービス』の理論と実践を支える学問体系」と定義される。本講義では、学校心理学とそれを支える心理学的基盤、心理教育的援助サービスの方法、学校心理学的援助の実際という3つの柱を、事例や演習を交えながら紹介し、体験的に学ぶことで上記到達目標を達成する。なお、心の援助資格(臨床心理士、公認心理師、精神保健福祉士)を有し心理臨床実務に携わってきた経験を生かした講義・演習を行う。
健康・医療心理学	2	専門科目	後期	2・3・4	佐久間 祐子	健康心理学は、心理学の中でも比較的新しい領域である。人間の精神と身体の結びつきを重視した、健康に関する多面的で複合的な学問であり、その範囲は狭義の心理学にとどまらず、健康を扱う、医学、保健学など、他の健康領域の学問にも関連する。この講義を通して、健康問題へのアプローチの方法を、心理学的手法を中心に、他の健康関連領域を含めて広く学ぶ。特に、ストレスとストレス対処や健康に関連する各種要因など、現代社会に生きる人々の心身の健康の維持・向上に重要となる知識・対処法を演習を交えて体験的に学び、健康問題をミクロからマクロまで広い視点で理解できることを目指す。なお、心の援助資格(臨床心理士、公認心理師、精神保健福祉士)を有し心理臨床実務に携わってきた経験を生かした講義・演習を行う。
司法・犯罪心理学	2	専門科目	前期	2・3・4	平間 さゆり	毎日どこかで発生している犯罪事象について、司法がどう関り、犯罪加害者の矯正教育や犯罪被害者の支援などについて学ぶ。また、刑事施設において精神鑑定心理検査を行っている経験を活かして、実際の鑑定で行われていること、及び事例などを用いて授業を行う。さらに、家庭内で生じる問題にも着目し、身近な家事事件についても理解を深める。
地域経済	2	専門科目	前期	3・4	今村 健太郎	本講義では、地域経済循環の仕組みと多様な地域経済発展のあり方を学ぶ。地域経済は活動の基軸となる企業・産業の構造によって固有の特性をもっている。少子高齢化や「ひと」「もの」「かね」「ちえ」のグローバル化が進むことで、ローカルな地域経済がどのように変貌していくのか、地方における地域経済の発展方向はどのようなものなのか、人口減少、財政状況の逼迫化、基幹産業の変化など、地域を巡る環境が厳しさを増すと言われる現状を事例も含め具体的な事例を通じて明らかにし、担当教員の地域企業に対するコンサルティング事例紹介をしながら解決策を模索していく。
アジア経済とビジネス	2	専門科目	前期	3・4	今村 健太郎	アジア新興市場の台頭やサービス産業の国際展開などにより、21世紀のグローバルビジネスは新しい成長の機会になっている。景気低迷下の日本の国内市場は縮小を続けており、日本の主要企業は国外、特に近隣のアジア市場より大きな収益を上げることが緊急の課題となっている。企業のアジア諸国を中心とした国際展開のケースを通じて、国際経営戦略理論と現実では何が異なり、その理由は何なのかについて考察する。これからの国際経営戦略を立案する上で、必要な基礎知識を習得し、今後のグローバルビジネスにふさわしいありかたについて担当教員の経営コンサルティング事例も紹介しながら探求する。
経営管理論	2	専門科目	後期	2・3・4	今村 健太郎	経営管理論は、組織・団体(主に企業)の管理を経営者、管理者の視点から組織の目的を達成するためにどのような経営、管理を行えばよいかを実践的な技法の確立を目指す学問である。企業経営の仕組み、運営を管理システム、とくにトップ・マネジメントの経営管理活動として、どのようにしているかを理論だけでなく、事例を交えて講義する。過去の経営管理が取り扱ってきた諸問題、そして、経営管理の新潮流まで担当教員のコンサルティング事例から指導する。
会計学	2	専門科目	後期	1・2・3・4	谷口 勝則	会計を初めて学ぶ学生を対象として、会計の基礎を学習し、会計の考え方を修得する。「会計とは何か」について、会社の仕組みなど会計の前提となる知識を学習した上で、会計の目的、役割及び財務諸表の体系を概観する。加えて、会社や社会と会計との関連を明らかにすることを通して、会計学の基礎を理解、修得する。公認会計士として、会計監査、コンサルティング業務に従事した経験を活かして、会計理論にとどまらず、実際に企業で行われている経営、会計実務を適宜紹介し、解説する内容も取り入れながら授業を進める。加えて、税金、年金、投資など、社会人として必須となる事項についても、実生活に役立つ内容の授業を行う。
簿記	2	専門科目	前期	1・2・3・4	谷口 勝則	企業活動における取引から財務諸表作成に至る会計技術、「簿記」の基礎を学習する。具体的には、簿記の基礎から日常の手続き、各種仕訳処理、決算手続き、財務諸表作成に関し、スライドに基づく講義、プリントを利用した計算演習により授業を行い、日商簿記検定3級レベルの内容を理解、修得する。公認会計士として、会計監査、コンサルティング業務に従事した経験を活かして、簿記理論にとどまらず、企業実務で如何に実践されているかを紹介しながら授業を行う。
コーポレート・ファイナンス	2	専門科目	前期	3・4	小池 裕子	本講義は「経済学I」の応用編として位置づけられる。本講義の前半では、コーポレート・ファイナンスの基礎理論や企業価値の評価方法について理解する。次に後半では、投資決定、資本構成、配当政策の3つの意思決定領域において企業はどのような行動をとるべきかについて考える。講師による解説に加えて、事例や演習問題を題材にしたクラス討議・グループ討議、受講生による研究・発表を通じて、企業価値を高める戦略的財務のあり方について議論する。 本講義では講師が外資系金融機関においてファンドマネジメント・アナリスト業務に従事していた経験を生かして、理論と実践の事項の橋渡しを行う。

実務経験のある教員による授業科目一覧

国際教養学部					担当教員	実務経験のある教員による授業科目 ＜授業概要＞
授業科目の名称	単位	科目区分	開講期	開講年次		
企業の社会的責任	2	専門科目	前期	3・4	今村 健太郎	本講義では、まず、社会と企業の関係を概観し、なぜ企業に社会的責任が求められるのかを考える。次に、企業の社会的責任をめぐる考え方の変遷や世界的な潮流を理解し、持続可能な社会の構築のために21世紀の企業や組織が果たすべき役割について、担当教員のコンサルティング事例も含め応用力の育成までしていく。議論する。講師による解説、事例(ISO26000、ワーク・ライフ・バランスやダイバーシティの推進、CSV経営など)に基づくクラス討議・グループ討議や受講生による研究・発表を通じて、履修後には、21世紀の企業や組織が果たすべき社会的責任やそれらに所属する個人の責任とは何かについて自分なりの意見が言えるようになることを目指す。
国際社会論	2	専門科目	後期	3・4	大塚 孝夫	前半では、国際社会をその起源から掘り起こし、現在迄に至る変容の歴史を概観しながら、その構成要因を解き明かしていく。後半は、国際社会に於ける近年の重要な出来事である、戦争と安全保障、欧州を中心とした地域統合の動き、そして世界が先進工業国と発展途上国とに二分化されていることによって起こる様々な事象を、国際機関の代表とされる国連の視点からも掘り下げていく。
国際関係論	2	専門科目	後期	2・3・4	大塚 孝夫	この科目では、時事問題等の具体例を通して、現代の国際関係を客観的に捉え、地球規模の問題・課題の根源を見つめられる観察眼を養うようにする。単なる講義だけではなく、教員の国連勤務経験も豊富に取り入れたディスカッション形式を多く取り入れ、学生の意見構築の能力を培う一助にもする。採り上げられるテーマは、現在の国際関係に於いて最も重要と見做される命題であり、能動的な授業参加を通じた履修が期待される。
グローバル・ビジネス論Ⅰ	2	専門科目	前期	2・3・4	今村 健太郎	グローバル社会の進展に伴い世界は一体化しつつある。激動している現在の世界の動きに注目し、グローバル経済の動向を規定している要因を分析するツールの使い方を習得することを目的とする。グローバル社会での経営活動を理解するために、モノやカネ、ヒトの世界的な流れの原因とその影響を分析する。そして地域ごとの制度や人々の生活状況などの企業環境を把握し、ビジネスのグローバル化に対応できる判断力・実行できる能力を担当教員が経営コンサルティングを行った事例も含めて伝えていく。
グローバル・ビジネス論Ⅱ	2	専門科目	後期	2・3・4	今村 健太郎	グローバル・ビジネス論Ⅰで得た知識を基にし、グローバル企業の実務的な問題を論じる。内容としては、グローバル経営における参入の形態および戦略、海外市場での販売戦略といったマーケティング問題、海外直接投資の実務研究、グローバル統合の形態とそれぞれの特徴などを考察した後、今日、日本の貿易の主流になりつつある企業内貿易、企業内国際分業の実態を捉え、それによって、グローバル経営の今後の動向に対する洞察力を養いたい。それと同時に担当教員のコンサルティング事例も含めて伝え、貿易および国際ビジネスにたずさわるために必要な知識を修得する。
アントルプレナー論	2	専門科目	後期	3・4	今村 健太郎	本講義では、個別企業のみならず、広く社会や経済の発展に影響を与えている起業家精神について学ぶ。講義の中では、まず、ベンチャー起業の事例を交えて起業家の使命を認識し、起業人材に求められる資質を体系的に理解した上で、受講生自らの資質と課題について具体的に考えていく。また同時にベンチャー企業の創業時や成長時における成功要因・失敗要因についても担当教員のコンサルティング事例も含めて伝えながら考察していく。最終回では、グループごとにビジネスプランを発表・評価し合うことで、ベンチャー事業構想活動の意義や方法論についての理解も深める。
イベント・プロデュースB	2	専門科目	後期	2・3・4	飯森 豊水	この授業では「イベント」を「文化的な行事、催し物」の意味で用いる。文化は「社会(コミュニティ)をより強く健全にし、経済の発展を促進する」(イギリス『文化白書』)という認識のもと、国内の文化事業を分析・検討し、新たに企画する。担当教員は音楽ホール勤務や文化行政の経験がある。「地域社会貢献研究」の実践版であり、「Social Studies 演習」の前提科目となる。
公認心理師の職責	2	専門科目	前期	1・2・3・4	鳥越 淳一	本講義では、公認心理師の資格を有する教員が実務経験を活かし、具体的に(1)公認心理師の役割、(2)公認心理師の法的義務及び倫理、(3)心理に関する支援を要する者等の安全確保、(4)情報の適切な取り扱い、(5)保健医療、福祉、教育その他の分野における公認心理師の具体的な業務、(6)自己課題の発見と解決能力、(7)生涯学習への準備、(8)多職種連携及び地域連携について学ぶ。公認心理師が国家資格であることを踏まえ、その目指すところを理解し、心理学的に関する専門的知識及び技術をもって仕事をする心構えを身につける。
合計	59					